

芸術

教科	科目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
芸術	美術基礎	2	2年次・E2	自由選択
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
JWS 透明水彩レンピ4 （日貿出版）		（水彩絵の具セット、水彩紙）		自由選択

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
水彩画の制作活動を通して、自然や社会、自己を深く見つめ、材料や用具の特性を生かし、形体、色彩、構成などを工夫して心豊かな表現の構想を練る。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
水彩画の技法を生かして、対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 学習計画と観点別評価項目

学年	学期	学習内容（単元・項目）	月	学習のねらい	評価の観点	
						1
学 習 の 年 間 計 画	1 学 期	1 オリエンテーション 2 基本技法の習得 (1) にじみ・ぼかし・たらし込み (2) 小作品集制作、鑑賞 3 静物画 (1) 水貼り、鉛筆の削り方について (2) 構図、構成について (3) 材質、形態感について (4) 色彩について (5) 道具の扱いについて (6) 鑑賞	5	<ul style="list-style-type: none"> 美術基礎の授業内容を説明し、美術基礎で学ぶ目的意識を明確にする。 教科書を使い水彩絵の具の特質について学ぶ。 水彩絵の具による偶然性を生かした表現を体験する。 	1 3	
			6	<ul style="list-style-type: none"> 水彩絵の具の白を使わず、紙の白の生かす方法を学ぶ。 	2 3	
			7	<ul style="list-style-type: none"> 対象の形態感や材質感に注意し、モチーフを組む。 組まれたモチーフの空間感を観察し、視点や構図に注意しながら画面に取り入れる工夫をする。 陰影やモチーフの質感を意識した色を調合し、塗る。 完成した作品を鑑賞し、相互評価することにより、自分の成果や課題を見つける。 	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 2 3	
			9	<ul style="list-style-type: none"> 無機物と有機物の質感の違いを感じとる。 様々な人物画、自画像を鑑賞し、イメージを膨らませて自身の制作に生かす。 	2 3 1 2 3 1 2 3	
			10	<ul style="list-style-type: none"> 内面の感情などを込め、作品の完成イメージまで計画的に制作を進める。 	1 2 3 1 2 3	
			11		1 2 3	
	12		1 2 3			
	2 学 期	2	4 風景画 (1) 鑑賞、人物画、自画像 (2) 下塗り、表情や構成について (3) 制作手順、制作計画を立てる (4) 鉛筆デッサン (5) 着彩、陰影、自然な見え方について (6) 鑑賞	9		2 3
				11		1 2 3 1 2 3
	3 学 期	3	(5) 着彩、陰影、自然な見え方について (6) 鑑賞	1	<ul style="list-style-type: none"> 写真とは異なる焦点、自然に絵を見せる陰影バランスを考える。 	1 2
				2	<ul style="list-style-type: none"> 互いの作品を鑑賞し、自分から見た自分と他の人から見た印象の違いなどに気づく。 	2 3

令和5年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

観点	1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度	
学 習 評 価	規 準	<ul style="list-style-type: none"> ○対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めることができるか。 ○意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて理解できているか。 ○主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりできているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むことができているか。 ○感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養うことができているか。
	手 段	<ul style="list-style-type: none"> ・制作の様子 ・自己評価表 ・作品 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作の様子 ・自己評価表 ・作品 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作の様子 ・自己評価表 ・作品
単元末や学期末及び年次末における評価の総括方法		単元末、学期末ごとに評価を総括し、年次末に、単元末と学期末の総括を行い評価する。		
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な材料を必要とするため教材費（2000円程度）を徴収する。 ・定期考査は行わないので、積極的に授業に参加し、作品を必ず完成させること。 ・実習が中心であるので、完成するまで根気や集中力が必要である。 			